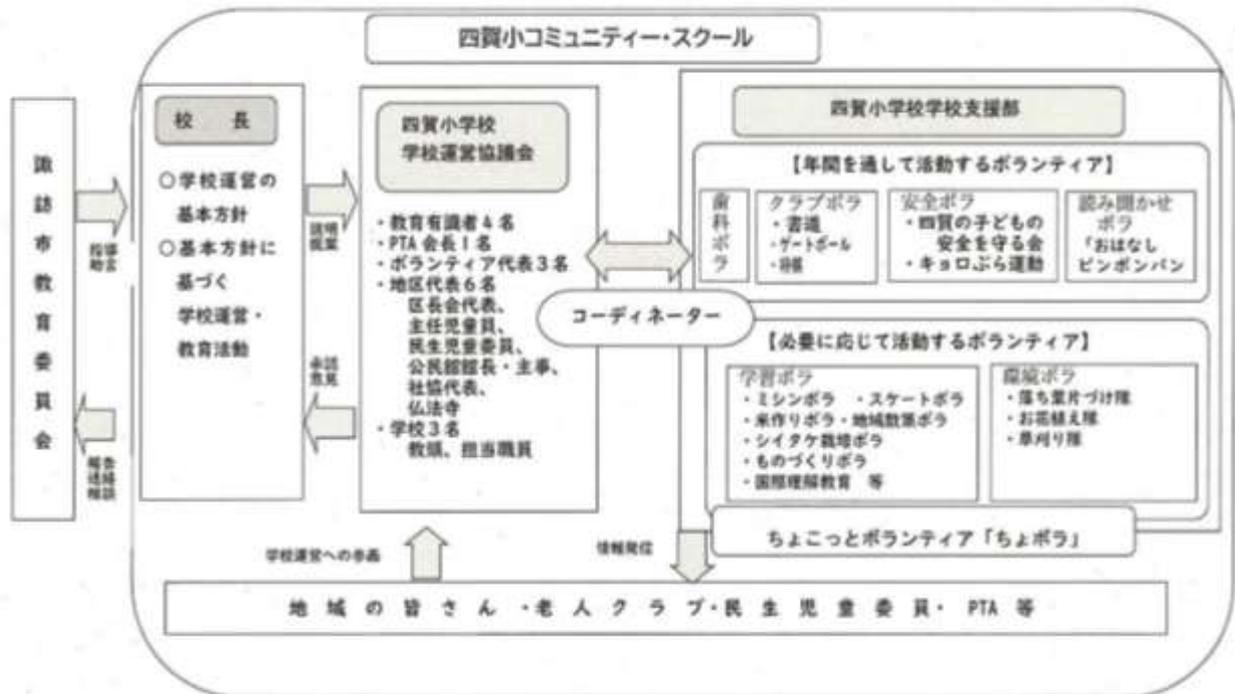


令和7年度 四賀小学校 コミュニティースクールのまとめ

1 組織図



2 学校運営協議会の歩み

(1) 第1回 令和7年4月21日(月)

13:45~15:20

- ・「ボランティアのみなさん紹介の会」参加
- ・令和7年度四賀小学校の学校運営について
- ・令和7年度四賀小学校学校運営協議会規約などの確認
- ・令和7年度四賀小学校学校運営協議会組織図、ボランティア活動について



体育館にて「ボランティアのみなさん紹介の会」を参観していただいた。ボランティア代表の皆様とともに、学校運営協議会の皆様にも一言ずつお言葉をいただいた。参観の後、今年度の学校運営について校長からグランドデザインをもとに説明がなされ、組織図やボランティア活動についての意見交換を行った。ボランティアと子どもとの関わりを大切にしていきたいというご意見とともに、地域でも子どもと地域の方が気軽に挨拶をかわせるようにしていきたいとのご意見が出された。また、増加する不登校児への対応や小中一貫教育校の設立へ向けて、地域を含めた三校の連携の大切さなどの話題が出された。

(2) 第2回 令和7年9月12日(金)

13:45~15:20

- ・6年生児童と「防災について語る会」参加
- ・令和7年度前期前半を振り返って
- ・ボランティアの活動状況・今後の方向について
 - ※「四賀小防災の日」(9/25)に関わって
- ・児童の様子など意見交換



学校運営協議会に先立ち、今年初めての試みとして、6年生児童と「防災について語る会」の場を設けた。学校運営協議会の委員の皆様には、四賀小学校体育館が避難所として開設された時に、「(小6の)自分たちは何ができるか」のグループ討議にアドバイザーとして参加していただいた。「“(避難してきた人の)お話し相手になって、信頼をつないでいきたい。”とつぶやいた6年生の姿から、大人だけの活動になりがちな場面に、子どもが関わることは大切と感じた。」「子どもにとって、防災が少し身近になったのでは。このような経験を積み重ねていくことが大切。」等の感想をいただいた。協議会では、今年初めて行われる「四賀小防災の日」や、諏訪南中学校区のコミュニティースクールが中心となって進めている「独居老人へのお手紙贈呈」活動などの紹介を含め、読書・歯科・米作りといったボランティアから進捗状況の説明があった。その後の意見交換の場では、下校途中災害時避難訓練を毎年繰り返し行っていくことの大切さや、地域でも子どもたちが参加できる防災訓練を考えていきたいことなどが話題となった。また、児童の登下校の様子や大雨の際は学区内でも冠水の危険性がある箇所があるため、異常を確認した際は学校と情報を共有していくことも確認された。

(3) 第3回 令和8年2月26日(木) 13:50~14:50 ※予定

- ・ボランティア感謝の会 参加
- ・令和7年度の学校運営について
- ・令和8年度の学校運営方針承認や学校運営協議会の方向について

3 地域学校協働活動の実際

【年間を通して活動するボランティア】

(1) 歯科ボランティア

平成17年度から本格的に始めた歯科指導は、歯科医、歯科ボランティアと連携した活動を行ってきた。保護者から歯科ボランティアを募集し、歯科医や歯科衛生士さんを講師に、歯科ボランティアの力量を高める歯科指導講習会を開催した。その上で、歯科検診の際、子どもたちの歯磨きチェックや磨き方の指導、染めだし液の塗布など、お手伝いいただくことができた。また、学校歯科医をボランティアとして迎え、仕上げ磨きなどの講習会なども行ってきた。「歯の染め出し」、年1回の口腔写真撮影、フッ化物洗口など、保護者や歯科医、地域を巻き込んだ歯と口の健康づくりに力を注いできている。ボランティアとして参加いただいた保護者の方からは、「子どもたちの歯の健康に携われて嬉しい」「自分自身もとても勉強になった」などの感想をいただいた。今年の秋は、学校でインフルエンザが流行したため、各学年の秋のブラッシング指導はのきなみ中止となってしまったが、「長野県よい歯の学校最優秀賞」と「日本学校歯科医会会長賞」を受賞することができた。この長きにわたるボランティアの活動についても、とても高い評価をいただいた。

(2) クラブボランティア (クラブ活動における取り組み)



高学年対象のクラブ活動では、「ゲートボールクラブ」を地域の方々にボランティアとして指導いただいた。ゲートボールクラブでは、基本的なルールや試合運び、作戦などを丁寧に教えていただいた。早くから準備をしてくださり大変熱心に関わってくださることで児童も楽しく活動することができ、とてもありがたかった。

子どもたちからは、「ゲートボールは今まであまり知らなかったけど、ルールが分かるようになりました。意外と難しくて大変だったけど、楽しかったです。」といった感想も聞かれ、最終のクラブでは感謝の気持ちをお手紙にまとめて、講師の方々に送ることができた。

(3) 安全ボランティア

「四賀の子どもの安全を守る会」

各地区長、民生児童委員、主任児童委員、PTA、学校職員等で組織される「四賀の子どもの安全を守る会」では、子どもたちの安全を確保するために、年2回の会を開き、子どもたちの安全に関する課題を検討している。6月の第1回目の会議では、各地区の危険箇所や地域の様子などを共有すると共に、下校中災害時避難訓練について話し合いを行った。6月6日（金）には地区の役員さんをはじめとして地域の方々、PTAの方々にご協力をいただき、「下校中災害時避難訓練」を実施することができた。

今年は、事前に全校で下校中の避難訓練を行うねらいを確認し、一人一人がめあてを持つ時間を設けた。当日は、周囲の状況をよく見て考え、自分の身をしっかりと守ることを意識したり、各公民館に避難した後に、高学年が中心となり、登校班の班員の避難カードを回収し、班員の安全を確認したりする姿が見られた。今後も継続して訓練していくことが必要だということ、地域の方々と共に取り組み、災害に備えていくことが大切であることなどを再確認した。



「キョロぶら運動」（見守りボランティア）

毎月学校より各学年の下校時刻をお知らせし、安全ボランティアの方が下校時刻に合わせて見回って、子どもたちを見守ってくださっている。歩くことが遅い子への寄り添いや、登下校時のトラブルへの対応、通学路の情報、危険事案の報告など、子どもたちが安全に安心して登下校できるように心を配ってくださっている。「挨拶は大事だと思うので、まずは自分から挨拶をして、声をかけるようにしている。」など、子どもを大切に考え、子どもに寄り添いながら安全に登下校できるよう活動していただいた。

(4) 読み聞かせボランティア「おはなしピンポンパン♪」

朝読書の時間、読み聞かせのボランティア「おはなしピンポンパン♪」の皆様から、月に一度読みきかせをしていただいた。ボランティアの皆様には前の月に例会を開催し、予定を組んで人数を確保して下さっており、全13学級全てにボランティアさんが読み聞かせに入り、子どもたちと対話をしながら読んでくださったり、児童も笑い声をあげたりしんみりと聞き入ったりするなど、本の世界に浸り込むことができた。継続して取り組んでいただくことで、どの学級でも子どもたちはこの時間をとても楽しみにしている。

また、今年は読書週間に合わせ、PTA図書部の皆様による読み聞かせも行われた。多くの皆様の支援により、本に親しむ子どもが多く見られている。

また、今年は読書週間に合わせ、PTA図書部の皆様による読み聞かせも行われた。多くの皆様の支援により、本に親しむ子どもが多く見られている。



【必要に応じて活動するボランティア】

<学習支援>

授業や活動の前に教師との打合せを短時間とり、何を支援していただきたいのか、どの学習部分は子どもに任せ見守っていただきたいのかを明確しておくこと、それを子どもたちにも説明しておくことを大切にしている。教師と同じ目線をもつ複数の目で子どもたちに接することで、学習活動や内容が充実し、子どもたちも安心してボランティアさんに声をかけることができている。

(1) 米作り



田起こし、代かき、田植えなど、とコーディネーターの松木様を始め、JA信州諏訪、地域の皆様に協力をいただきながら学習することができた。稲刈り、脱穀等も児童の体験的な学びにつながるよう、昔の道具（千歯こき、足踏み式脱穀機）などを使う体験もでき、昔の人々の苦勞に思いを馳せたりしながら米作りの貴重な経験ができた。職員でもあまり経験のない中、やり方を教えていただいたりコンバイン、脱穀機などの用具をお貸しいただくなど、助けていただいた。年間を通して、草取りや病気・害虫なども心配していただき、学校職員としても安心して学習できて、とてもありがたかった。

また子どもたちは、脱穀後のわらも大切に使用したいと、わら細工づくりにも挑戦した。地域の八和会の皆様にお手伝いをいただきながら、しめ縄づくりに取り組んだ。子どもたちは、しめ縄をつくるためには、下準備や作業工程に大変な手間がかかることに気付くとともに、自分で作りあげたという満足感を得ることができた。



(2) スケート

スケート教室では、保護者だけでなく地域の方もスケート場に参集していただき、靴紐の結び方、滑り方などの支援をしていただいた。毎月「学校だより」を地域回覧しボランティアを募集しているが、「ちょボラ通信」でも回覧をお願いし、ボランティアを募ったところ、今年度の登録はのべ81名にのぼった。

ボランティアの皆様のご支援のおかげで、子どもたちは十分に滑る時間を確保することができ、また一緒に滑ってくださったり手を取って歩いてくださったりする方もいて、子どもたちの上達の手助けにもなった。また、靴擦れができてしまった子にも対応していただくなど、子どもたちをあたたかく支援してくださる姿があり、とてもありがたかった。

(3) 1年生遠足

1年生は、中洲小学校と沖田公園を目的地として遠足に出かけた。子どもたちにとっては、小学校で集団で長距離を歩くことは初めての経験だったが、多くの引率のボランティアにお手伝いをいただくことができ、安心して遠足を行うことができた。道路の歩き方など安全に注意していただくだけでなく、一緒に楽しいお話をしてお互いに仲良くなって充実した一日を過ごすことができた。

ボランティアの方からも「子どもたちと一緒に歩くことができるとても楽しかった。」と感想をいただいた。このような交流をする中で、ごく自然と地域に関する話ができて、新たな発見や地域を大事にする心、地域の皆様に見守られている自分たちへの気づきにつながると感じた。

(4) 総合的な学習の時間ボランティア

今年、3年2組では総合的な学習の時間で、四賀地域の史跡探検をしたり学芸員の方などに史跡に関わる歴史を教えていただいたりしてきた。その成果を発表したいと考えた子どもたちの様子から、担任はコミュニティースクールコーディネーターの矢崎様に学習支援をお願いした。矢崎様とは、事前に担任と連携を取りながら「子どもたちの願い」を共有し、子どもたちの発表内容や、劇や紙芝居などの発表方法に関わって多くのアドバイスをいただいた。矢崎様には、子どもたちの活動を温かく後押ししていただき、子どもたちは夢中になって発表の準備を進めることができた。参観日では、お家の人に向けて自分たちが学んだことを堂々と自信をもって発表することができた。



(5) ミシンボランティア

今年より、5・6年のミシン学習支援も始まった。ミシンを使って、エプロンやナップザックを作る学習は、

同時に多くのミシンを使用するために、多くの支援の方を必要とする。コミュニティースクールコーディネーターに相談したところ、多くの方々がミシンボランティアに参加してくださいました。特に5年生は、初めてのミシン学習で戸惑う姿も多く見られたが、一人ひとりの子どもに優しく声をかけ、それぞれの困り感に寄り添って支援していただき、子どもたちも集中して学習に取り組むことができました。

(6) 四賀小防災の日



今年初めての試みとして、全校一斉に防災について考える「四賀防災の日」を実施した。諏訪市消防団第6分団の方々にお出でいただき、消火訓練の様子を見学した後、低学年を中心に消防車車両の見学を行った。その後、3・6年生は、直接分団の方と交流をしながら、社会科やキャリア教育の学習を行い、4年生、5年生も、市役所危機管理市民安全係の方や、日本赤十字社長野県支部の方々に来校いただいて、体験型の防災学習（避難所運営ゲーム HUG）を行った。第6分団の消火活動を見た子どもたちからは「あんなに重いホースをもって、きびきび動けてすごい。」「たくさんの方が協力しながら、火を消していた。チームワークが大切なんだと感じた。」「分団の方が、地域の方が困っていたら助けたいと考えて、頑張っている姿はカッコいいと思った。」などと、自分たちの安全を守ってくださる消防団について多くの感想を聴くことができた。4・5年生も、学校の先生ではない方々と一



緒に防災について考えることができ、貴重な体験となった。この日は、子どもたちにとって防災の意識を高めたり、自助、共助、互助の精神を育んだりして、地域社会と協力して防災に取り組んでいこうと考えるきっかけになる一日となった。

<環境支援>

(1) 地域貢献ボランティア

毎年、JA信州諏訪の皆様が中心となり、地域貢献ボランティアとして校庭の落ち葉の片付けをして下さっている。秋に一斉に舞い落ちるケヤキやかしの葉。今年も多くの方が参加して下さり、作業の大変な斜面や側溝の中まできれいにしていただいた。



<地域の方との交流>

(1) お手紙交流

諏訪南中学校区の中洲小、諏訪南中学校からの呼びかけで始まった地域の高齢者へ向けにお手紙を書く活動だが、三年目を迎え子どもたちも地域の方の返信を楽しみにしている様子が見られるようになってきている。今年は、6年生はお手紙に加え、自作のしおりを作成し同封した。楽しかった修学旅行の1シーンを描いたものや、好きなキャラクターなど、丁寧に色を塗る姿から地域の方への相手意識も芽生えてきているように感じる。手紙は、民生児童委員の方々を中心になって、地域の高齢者の方々へ渡していただいた。地域の方からは、「力を貰いました。」「夢に向けて頑張ってるね。」などといった励ましのお手紙も届き、子どもたちも嬉しそうに頂いた手紙を読む姿があった。改めて、自分が通っている四賀小学校を気にかけて支えてくださっている地域の方々の存在に気付く機会となった。

4 まとめ

(1) 成果

- ・今年度より、月に1回コミュニティースクールコーディネーターの方々との打ち合わせの機会を設けた。その時々各学校や地域における願いや課題を共有する中で、6年生と学校運営協議会の皆様が「防災について語る会」や「四賀小防災の日」、ミシンボランティアなど、新たな試みも計画実施することができた。特に「防災について語る会」は、授業のねらいや授業の流れ、使用するパワーポイント等の内容まで確認し、アドバイスをいただきながら、実施することができた。そのすぐ後に実施される「四賀小防災の日」に子どもの学びが繋がっていく大切な活動を位置付けられたように思う。
- ・地域の方に学校を知っていただくために、毎月の学校便りを地域に配布・回覧している。また、各安心の家にも、PTA役員を通じて学校だよりを届けていただいている。学校だよりにある下校時刻を参考にしながら、地域の方も子どもたちの安全を見守って下さっている。また学校ホームページで日々の活動を紹介している。今後も地域回覧やホームページ、ブログなどを通じて、学校での子どもの姿を伝えたり、ボランティアなどの募集呼びかけを発信したりしていきたい。
- ・「四賀小防災の日」や「ミシンボランティア」など、新たに学習ボランティアとして多くの地域の方に関わっていただいた。ボランティアの方との関わりの中で、子どもたちは、地域の方が地域や自分たちのために働いたり活動したりしてくださっていることに気づくことができた。また、「自分もそうになりたい」というあこがれの目でボランティアの方を見る姿もあった。今後とも、キャリア教育の一環としても様々な形でボランティア募集を広げていきたい。
- ・南部三校のコーディネーターが連携して、講師の紹介等をしていただき、4年生の「木遣り体験」を今年初めて本校で実施することができた。中洲小と四賀小が連携していくことは、諏訪南中学校への滑らかな接続へと繋がっていく。来年度以降も、続けられると良い。

(2) 課題

- ・今年の「防災について語る会」の成果をふまえ、引き続き「していただいたこと」だけでなく、「自分たちができること」「地域のために役に立つこと」など、地域に見守られている自分、地域に貢献できる自分の姿を子どもたちがさらに意識できるようにしていきたい。
- ・ボランティアの方が地域の方に声をかけてメンバーを増やして下さっているが、高齢化、集中化の傾向は否めない。活動を継続させ充実させるために、今後も「諏訪市ポータルサイト(ホームページ)」「学校だより」「ちょボラ通信」などの広報活動を通じて、活動内容を広く地域の方に発信し、より多くのボランティアを募ってきたい。

(3) 次年度に向けた展望

- ・小中一貫教育がスタートし、南部三校のコーディネーターが中心となり、一緒に地域に住む高齢者の方へのお手紙交流や三校CSだよりの発行など、様々な取り組みに取り組んでいただいている。来年度以降も、連携を深め、活動の広がりや深まりが出てくるような活動に取り組んでいきたい。